

決算 ランキング

④

コロナ禍の逆風の中でも最高益を更新し続ける企業はある。2021年3月期までの連続年数をランキングしたところ、1位は埼玉地盤の食品スーパー、ヤオコーだった。連続記録は27期と2位以下を大きく引き離す。上位には「健康」や「非接触」などを軸にコロナに左右されにくい事業モデルを築いている企業が目立った。

8月14日時点で最終損益の見通しを開示している企業（金融、決算期変更など除く）を対象に集計した。最高益更新を見込むのは132社。業績予想を明らかにしていない企業も多く、単純比較はできないが、378社が最高益となった前期の

逆風下で連続最高益 ヤオコー27期

総菜・PB 個食需要つかむ

上場企業の連続最高益年数

順位	企業名	年数	増益率
1	ヤオコー	27	2%
2	セリア	12	5
3	エス・エム・エス	11	1
3	ビジネス・ワンホールディングス	11	4
5	ワークマン	10	16
6	ベネフィット・ワン	9	10
6	コムチュア	9	5
6	オービック	9	微増
9	日産化学	8	微増
9	日本新薬	8	13
9	エレコム	8	2
9	KDDI	8	微増
13	T I S	7	微増
13	クレスコ	7	1
13	伊藤忠テクノソリューションズ	7	5
13	ジャパンマテリアル	7	4
13	D T S	7	1
18	総合警備保障	6	2
18	グリムス	6	4
18	シップヘルスケアホールディングス	6	3
18	リスクモンスター	6	2
18	アドソル日進	6	微増
18	田岡化学工業	6	微増
18	プレステージ・インターナショナル	6	5
18	G-7ホールディングス	6	14
18	沖縄セルラー電話	6	微増

(注)21年3月期の会社予想の最終損益を開示している企業のうち継続比較できる企業が対象(金融、決算期変更など除く)。最高益判定は判定決算期を含め過去6年間分のデータが存在し判定決算期の最終損益が最大かつ、上場している場合を1とする。14日時点、日経NEEDS調べ

約3分の1の水準だ。前期まで14期連続で最高益を記録した力カクコムは予想を開示していないが、20年4〜6月期の純利益は67%減となり記録更新が危ぶまれる。住友不動産(前期まで7期連続)や三井不動産(同6期連続)は商業施設の賃料減免などが響き脱落する見込みだ。

最高益を更新するヤオコーは総菜やプライベートブランド(PB)商品に充実させ、少子高齢化による「個食対応」を進めてきた。コロナ下で「単月期は介護や看護師の人数が増えている」(足

「ごもり」が広がる中で高単価の総菜が伸び、2月から7月までの毎月の既存店売上高は前年同月を10%以上上回った。

2位は12期連続で最高益を見込む100円ショップのセリアだ。店頭ではマスクやアルコール消毒製品のほか、自宅を快適に過ごしたいという来客の間で清掃や収納用品などが売れている。

3位の医療情報サービスのエス・エム・エス(ES)は在宅勤務の拡大で「オンラインで完結する学習や健康支援サービス」の需要が増えている(足

「カイボケ」も利用会員数を伸ばしている。企業の福利厚生代行サービスを手掛けるベネフィット・ワンは9期連続の最高益更新を見込む。契約企業から受け取る料金をサブスクリプション(継続課金)型のモデルを構築している。企業の在宅勤務の拡大で「オンラインで完結する学習や健康支援サービス」の需要が増えている(足

立紀章執行役員という。希少疾患を手掛ける日本新薬は16年に発売した肺動脈性肺高血圧症治療薬「ウプトラビ」について米ジョンソン・エンド・ジョンソンとライセンス供与の契約を締結。ロイヤルティ収入が年間100億円規模で入り、業績を押し上げている。



詳細なランキングを電子版マーケットに。QRコードを読み取ると表示されます。